

茨城の旅 2022



2022 年 4 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

老若男女の旅友 6 人で茨城県を旅してきた。今回の旅のテーマは“宿にこだわる”こと、そして都道府県別人気度ランキング最下位常連の“茨城県の魅力発見”としている。

■敢えて茨城県探訪

今回の旅は関西の仲間たちが関東に来ることになり計画した。そしてこの旅に先立っておっさんたち 4 人の先発隊が伊豆箱根を旅してきた。(旅行記「伊豆箱根の旅 2022」参照)

日本でも有数の観光地である伊豆箱根を巡った後に、都道府県別人気度ランキングで最下位常連の茨城県を選んだのは妙な組み合わせになっていると思う方もいるかもしれないが、私は兼ねてから茨城県は決して最下位ではないと思っており、それを関西のメンバーに訴えたく、あえて茨城県を選んだ。関東人でもあまり茨城県を目的に旅をしないので、関西人にとっては全く馴染みがない地なので、きっと感動の旅のなるだろうと思ったからだ。



【赤丸が今回の訪問予定地】

私たち先発隊は神奈川県から関東平野を横断して茨城県つくば市に着いた。そのメンバーはヨコさん、ヒデさん、ヨシさん、そして私を入れた 4 人で、年に 1 回くらいの頻度でこのメンバーで旅をしている。

今回はその 4 人に、アイドル的存在の若い女性のカナちゃん、その彼女より多少(?) 早く生まれた姉ちゃん加わり、6 人の旅が始まる。いずれも地球一周の船旅で知り合った飲み仲間で、このメンバーの中では私だけが関東に住んでいる。

彼らにとって茨城県は全く足を踏み入れたことがなく、茨城県初体験の旅が始まる。

■筑波研究学園都市

集合したつくば市は筑波研究学園都市として国や民間の研究機関が集まっている。中心には筑波大学があって、実は私はこの大学に 47 年前に合格していた。結局私は地元の大学に進んだが、入学していれば第 2 期生になっていた。その時に私が受験した場所は筑波大学ではなく前身の東京教育大で、筑波大学には今回初めてやって来た。

筑波大学は約 4km×1km の広大な敷地に全ての学部（筑波大学では学類）があり、校内の見物にも乗り物が必須という広さになっている。

多数ある国の機関のいくつかを見学しようと、まず私たちは旅で知り合った仲間なので旅に役立ちそうな国土地理院の「地図と測量の科学館」を訪れる。

エントランスに大きな日本地図が床一面に描かれており、3D メガネを用いて見ることによって山や海溝が立体的に見ることができる。通常サイズの立体地図はよく目にするが、この大きさの地図は圧巻で、テニスコートくらいの広さがある。地図の上とはいえ九州から北海道まで歩くのに疲れるくらいだ。

屋外には「日本列島球体模型」と呼ばれる展示がある。地球儀を日本列島の部分で切り取ったドーム状の形状をしており、直径約 22m、高さ約 2m の上に立つと地球の丸さが実感できる。1/20 万の地勢図が足元の陶板に焼き付けられている。この上に立って見下ろす日本列島は、高度約 300km の人工衛星から見下ろしたものに相当し、地球の丸さや日本の広さなどを体感できる。案の定、我がメンバーたちは子供のようにはしゃいでいる。

その横には直径 1.5m 程の地球儀があって、そこから少し離れたところに月球儀がある。この地球儀と月球儀の大きさと距離は実際の地球と月の関係に相当しており、説明員の話ではここから眺める筑波山の頂上に直径 150m の球体を置けば、それが太陽に相当するというから実に良く考えられている。

他にも私たちがあまり知らない展示が数多くあり、私も皆も正直とても感動した。



【地図と測量の科学館の日本列島球体模型 左の赤丸が月球儀】

私の持論で、感動とは予想や期待と現実の差（ギャップ）だと思っている。それは例えば、ある綺麗な景色を初めて見る人と、何度も見ている人では感動の度合いが違う。期待していなかった場合や偶然に遭遇した場合の感動は大きく、反対に知り尽くしている場合や過度の期待を持った場合には感動は少ない。さらに期待が裏切られた場合には落胆する。これを私は「偶然と感動、期待と落胆」という言葉にしている。

この施設は正直あまり期待していなかった。ほとんど偶然だったので感動が大きかった。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の「筑波宇宙センター」にやって来た。

一週間前に筑波研究学園都市を訪れた友人から、この施設が面白いと聞いていたので私は見学の予約を入れていた。入口には大きなロケットがあり、私たちを広い宇宙にそのまま運んで行ってくれるかのように感じる。

スペースドームと呼ばれる展示館では、実物大の人工衛星や本物のロケットエンジン、日本の実験棟「きぼう」の実物大モデルなどが展示されている。先ほど見学してきた国土地理院の「地図と測量の科学館」に比べると入場者が多くとても活気がある。若者のグループを中心に団体客も多い。やはりそのスケールと先進性が人気なのだろう。

国土地理院の施設は“日本と地球の関係”をテーマにしていたようで、その後の JAXA の施設は“地球と宇宙”というテーマになっている。この 2 つの施設を続けて見学したので、私たちの住む日本から地球、そして宇宙がひとつに繋がった。



【H3 ロケットと JAXA の建物】



【スペースドームの内部】

■ 日本三名瀑

茨城県には日本三名〇と呼ばれる場所が 2 つある。

私たちはまず日本三名瀑の「袋田の滝」を訪れる。日本三名瀑の他の 2 つの滝は和歌山の「那智の滝」、日光の「華厳の滝」でどちらも有名だが、その 2 つに比べて袋田の滝の知名度はいまひとつかも知れない。ましてや関西から来たメンバーにとっては初めての訪問であることはもちろん、袋田の滝という名前さえも今回初めて聞くという輩もいる。

袋田の滝は茨城県の北の果て奥久慈地方の太子（だいご）町にあり、私たちは駐車場に車を置き、観瀑台に行くために山をくり抜いたトンネルの中を歩いて行く。トンネルの中はひんやりと涼しく、いかにも水量豊富な滝が待っているという雰囲気がしてくる。カナちゃんも姉ちゃんも女性陣は少し寒がっているが、それでも何か凄いものがあるだろうという期待から足取りは軽い。そしてしばらく歩くと私たちの目の前に名瀑がその雄姿を現した。



【袋田の滝】

この滝は高さ 120m、幅 73m、滝が岩壁を四段に落下することから、別名「四度（よど）の滝」とも呼ばれ、三名瀑の他の 2 つに比べると横に広く、滝を見る観瀑台から滝まで距離が近い。そのために他の滝に比べて明らかに迫力がある。それも圧倒的な迫力を感じる。滝を見て関西組は誰もが驚き、そして感動している。あまり期待も予期もしていなかったことも幸いして大きな感動になったのだろう。やはり「偶然と感動」は正しいようだ。

今は新緑の季節だが、もちろん紅葉の時期も良い。私は訪れたことがないが最も凄いのは厳冬期で滝が全面凍結する。その凍結した時のポスターが観瀑台に行く途中の壁に貼ってあるが、凍った滝をピッケルやアイゼンを使って登る人々も写っている。



【凍結した滝のポスター】

このメンバーで旅していると、この景色は世界の何処で見た景色に似ているとか、あそここの景色にはかなわないとかを口にする人が多い。そのことが日本を旅しながら世界を旅しているような気分になるから面白い。那智の滝はエンジェルフォールに似ているが、袋田の滝はナイアガラのか、イグアスの滝か、いろいろな意見がでた。しかし結局どちらにも似ていない。世界でも日本でもあまり見かけないタイプの滝のようだ。

■日本三名園

次に訪れたのは日本三名園の水戸の「偕楽園」だ。

ご存知の方も多いが、残りの 2 つの名園とは金沢の「兼六園」、岡山の「後樂園」になる。私の勝手な思い込みでは、3 つの中では偕楽園が最も地味な庭園かもしれない。

偕楽園は江戸時代末期に水戸藩主の徳川斉昭が領民の休養の場所として開園させた。約 100 品種 3000 本の梅の木が植えられており、様々な品種があるために「早咲き」、「中咲き」、「遅咲き」と長期間にわたり梅を楽しむことができる。今は梅の花の時季ではないので、あまり入園者はおらず、閑古鳥が鳴くというのは言い過ぎかもしれないが賑わいはない。

私が数年前に偕楽園を訪れた時には入園料は無料だったが、今回は 300 円の入園料を払った。梅の花の時季ならばともかく、閑散としているこの時季に入園料を取っては人々の足が遠のく、徳川斉昭の気持ちにそぐわないことに少々腹を立てつつも園内を散策する。

好文亭という木造 3 階建ての建物がある。この建物は徳川斉昭の別邸で、質実剛健の水戸藩の雰囲気を保ちながら優雅な造りをしている。好文亭は藩主の別邸だけではなく庶民とともに利用することを目的としており、3 階の広間は楽寿楼と呼ばれ、そこからの眺望は見事で、梅林や隣の仙波湖、水戸市内が一望できる。3 階まで飲食物を運搬するために木製の滑車を使ったエレベータまであるから、かなり頻繁に宴会が行われていたことを物語っている。

尚、現在私たちが見ている好文亭は第二次世界大戦の末期、空襲で大部分が焼失したので、創建時の状態を出来るだけ復元するように再建されたものだが、なかなかの復元技術でその事実を知らなければ当時のものと勘違いするだろう。

気になる偕楽園の関西組の反応は「これで日本三名園を見ることができた」というある種の記録達成イベントだったようだ。これは梅の花の季節に連れて来ないといけない。



【好文亭 3 階の楽寿桜の部屋 そこから見た偕楽園と仙波湖】

■国民宿舎鵜の岬

今回泊まる茨城県日立市の「国民宿舎 鵜の岬」に到着する。この宿は日本で一番人気がある国民宿舎で滅多に予約が取れない。全国に多数ある公営国民宿舎の中で常に客室稼働率が90%近い数字を維持しており、26年間も連続第1位というから凄い。

人気宿なので普段は予約が取れないが、コロナ禍の平日ということで予約が取れた。それも2連泊で予約できたからラッキーだ。

国民宿舎というと四角い殺風景な建物を想像するが、8階建てのこの宿は曲線を基調に斬新なデザインをしており、ちょっと例えようがない形をしている。広い敷地には8階建ての宿泊棟以外に丸いレストラン棟などお洒落な外観をした付属施設もある。



【国民宿舎鵜の岬 左が宿泊棟、右がレストラン棟】

建物に入るとエントランスもロビーもとても明るくて広い。解放感抜群で、一般的な国民宿舎のイメージとは程遠い。廊下を歩くと手すりが完備されており、木を多く使っているのが特徴的だ。部屋は和室で広く、畳の部分以外に板の間も広くとってあり、そこに座り易い応接セットが置かれている。驚くことはバルコニーの床が木製の茶色的高级スノコになっていて綺麗に清掃されているので、素足のままバルコニーに躊躇なく出られる。オーシャンビューが売りの宿なのでその配慮はさすがだ。



【開放的なロビー】



【客室 手前が畳の間、奥が板の間】

鵜の岬という名前が示すようにこの岬は海鵜（ウミウ）で有名で、長良川の鵜飼いなど全国 11 カ所の鵜飼地にウミウを供給している全国唯一のウミウ捕獲場がある。捕獲場は無料で見学できるが、残念ながら今は捕獲時期で見学できない。宿のテレビで捕獲の様子を放映しており、御座で出来た小屋に隠れてウミウの足を後ろから棒で引っかけて捕獲するという古典的な技がなかなか面白い。その捕獲場は宿の近くにあって歩いて行ける。

最上階にある大浴場からの眺望は素晴らしい。もちろん温泉で、温泉に浸かりながら太平洋を望むことができる。朝 4 時から大浴場が開くので太平洋に上る日の出も売りになっている。サウナもあり、サウナ室にも窓があって同様な眺望が楽しめることはサウナ好きの私にとってはこの上ない。



【部屋から海岸を見る この右が捕獲場】



【日の出 この写真は前回訪問時のもの】

食事は別棟の丸いレストラン棟で食べるが、このレストランは天井が高く 360 度近い眺望でとにかく解放感があり、とても豪華な雰囲気になっている。このようなレストランは私にとってもあまり経験したことがない。



【丸いレストランの内部】

夕食の料理は 4 つのコースがあつて、事前に連絡するようになっている。私は連泊をするので価格的に両極端の 2 つのコースを頼んでいた。

一般的にコース料理でグレードをいくつか用意するときには、料理長はお得で自信のある料理を何品か選んでそれらを基本のコースにする。あとはそれに 1 品 2 品追加してグレードを上げていく。この宿の場合は基本の C コースの上に B コース、A コースと 3 つあり、さらにその上に素材特選コースというのがある。そのコースは 3 つのコースの素材ではなく高級素材を使用した全く別モノのコースになっている。

初日、私たちはその素材特選コースを食する。予想通りいや予想以上に美味い。美味いだけではなく手がこんでおり、もはや芸術という域かもしれない。ヨシさんは「こんな料理食べたことがない」とまで言って絶賛している。私も私だけではなく全員がその意見に賛同している。特に女性陣は男性陣よりも感激しているように見える。

翌日、今度は一番安い C コースを食する。刺身、しゃぶしゃぶ、陶板焼きなど 8 品あつて質も量も充分で、このコースでも文句の付けようもない。

ついでに書くと、丸いレストランの中央には汁物の大鍋が置いてあつて自由におかわりできる。この汁物も絶品で、1 日目は具たくさんの鮪のつみれ汁、2 日目は渡り蟹がたくさん入った蟹汁だった。あまりの美味に私は両日ともにおかわりをしてしまった。コース料理で、しかも酒を飲みながらの会食の場合、最後の汁物は“メのラーメン”の感覚になり別腹になる。そのあたりの顧客心理が実に良く分かっているのは、さすが連続日本第 1 位だと感心する。



【特選素材コース】



【C コース】

こんなこともあつた。料理が配膳される時にメンバーの 1 人が汁物をこぼしてしまった。するとウェイトレスが即座に片づけて床やテーブルを拭いてくれた。その時に浴衣の上に羽織っていた半纏にも少しかかってしまったが、半纏は宿のもので洗濯するだろうと本人は簡単に拭いただけだった。すると直ぐにウェイトレスが替えの新しい半纏を持ってきてくれた。

これら一連の行為が迅速かつお客本位なことに私たちは驚き、みんなで「ありがとう」と声をそろえて言ったほどだ。

人は計らずして予想を超えたものに遭遇すると感動する。私の持論の「偶然と感動」はここでも証明されたようだ。

気になる費用については料金体系が宿泊、夕食、朝食と別立てになっていて分かり易い。夕食は C コースが 3465 円、素材特選コースが 8085 円、宿泊と朝食を加えると各々約 12000 円、約 16700 円になる。どちらも納得いく価格だが、私は素材特選コースを断然お勧めしたい。2 食付き 16700 円くらいの宿は私も時々利用しているが、それらの宿の料理に比べてこの宿の素材特選コースは圧倒的に良い。

■ネモフィラ満開のひたち海浜公園

今が見頃のネモフィラの花が満開の「ひたち海浜公園」にやって来る。天気も良く、多くの自家用車や観光バスが来ている。3 つある駐車場は全部で 4350 台も停められるが、平日の朝早い時間帯だというのに既に駐車場は半分くらい埋まっており、さらにどんどん車がやって来ている。私にしても 2 回目の来園で、良く知っているというレベルではないが、前に来た時よりも明らかに人も車も多い。以前来た時との違いは来園者の数だけではなく、全員がマスクをしていることだろう。

それにしても園内が広いので駐車場から 20 分近く歩いているが、ネモフィラの咲く「みはらしの丘」にはなかなかたどり着かない。他のメンバーもこの公園の広さに驚いている。それはそうだろう、ここはかつて旧日本陸軍の飛行場で、実は東京ディズニーランド建設候補地にもなった。広さは現在の東京ディズニーランドの 7 倍もある。

ようやくネモフィラの花が見えて来る。青一面のネモフィラが咲く丘には人々が列を成して登っている。青いネモフィラの花の咲く丘の手前には黄色い菜の花畑が広がっており、黄色の上に青という構図は、今ロシアから軍事侵攻を受けているウクライナの国旗に似ている。そう感じているのは私だけではないだろう。

満開のネモフィラをバックに結婚式の前撮りのカップルもかなりいて、青いネモフィラに新郎新婦の白い衣装が映えている。私たちはそのカップルたち皆に「お幸せに！」と声を掛けると、「ありがとうございます」と幸せいっぱいという言葉が返ってくる。そのやり取りが実に自然で気持ち良く、“幸せのお裾分け”をもらっているという感じが心地よい。

ウクライナ国旗のような花の中で、幸せを享受してもらってはいるが、ウクライナで今起きている惨事を忘れていた自分にふと気が付く。そして私はそのウクライナを訪問したことがないことにも気が付く。さらにまた一つ訪問したい国が増えたことにも気が付く。

それにしても一体いつになったら平和になって、ウクライナを訪問できるのだろうか。



【菜の花の黄色の上にネモフィラの青】

テレビ局の取材も多く来ている。取材クルーたちが近づいて来たので、ディレクターらしき人に声を掛け何処のテレビ局かと聞くと、TBS テレビで本日夕方に放送すると教えてくれた。

私も時々観光地でテレビ取材を受けるが、テレビカメラは最も特徴的な映像を実に上手く撮るから鵜呑みするのは危険だ。しかし本日の景色は鵜呑みをしてしても全く問題ない。むしろ率先して鵜呑みして欲しいくらいだ。それは本日私たちが鵜の岬から来たから“ウノミサキ”だからだ。



【ネモフィラの咲く、みはらしの丘】

公園内は広く、1 年を通じていろいろな花が咲くが、花がなくてもいつでも楽しめるようになっている。散策だけでも充分に楽しめて、大草原、遊園地、大きな噴水の池、森林浴できる小路、古民家、アスレチック、どれをとってもレベルが高い。さすがに国営の公園で、潤沢な資金が成せる業なのだろう。



【水のステージ】



【フラワーガーデンのチューリップ】

今回の“宿にこだわる”そして“茨城県の魅力発見”の旅も終りの時が近づいてきた。

既に全国第 1 位の国民宿舎鶴の岬はもちろん、ひたち海浜公園や袋田の滝、筑波研究学園都市など見て、私たちは幸せや感動をもらった。それなのに茨城県の人気度が日本で最低ランクということに関西メンバーも到底納得できないと言うようになった。

その納得できない気持ちが彼らの心に強く刻まれたことが、“茨城県の魅力発見”の旅の成功を意味していると私は思う。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合って各項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

今回は参加した全員の評価から平均値を算出して、評価値として採用した。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

「国民宿舎鵜の岬」は泉質 3.5、風呂 4.5、料理 4.7、コスパ 3.8、サービス 3.8、建物・部屋 4.8、立地環境 4.8、総合点 4.29 になった。

湧出温度 47.6℃、pH8.9、泉質は低張性、ナトリウム-硫酸塩塩化物塩温泉となっている。

■旅の記録

実施は 2022 年 4 月 21 日（木）～23 日（土）の 2 泊 3 日、その行程を以下に示す。尚、本文では一部順番が異なる部分や省略している部分もあるが、こちらの記録の方が正しい。

- ・ 1 日目 伊豆箱根の旅を終え、11 時につくば研究学園駅にて追加メンバー 2 人と合流し 6 人の旅が始まる
国土地理院「地図と測量の科学館」見学、コンビニの店先で昼食を食べ、
「JAXA（宇宙航空研究開発機構）筑波宇宙センター」を見学、
15 時 30 分に「袋田の滝」見物、17 時「国民宿舎鵜の岬」にチェックインして
夕食は素材特選コースを食べる
- ・ 2 日目 9 時 30 分に宿を出発、11 時「ひたち海浜公園」に到着し約 3 時間見物、
持ち込んだ軽食で昼食、車で移動し 15 時に水戸の「偕楽園」入園、
16 時にカナちゃんが帰宅し、5 人で宿に戻り、夕食は C 定食コースを食べる
- ・ 3 日目 9 時に宿出発、関西組の男性陣は車で帰途につき、私と姉ちゃんは筑波大学車窓見物
11 時に分かれ、14 時帰宅

私が支払った費用は約 4 万円 2 千円になった。国民宿舎鵜の岬の費用がその大半で、個別の内容を以下に示す。

- ・ 国民宿舎鵜の岬の支払い 約 27000 円（1 人当たり）
 - 1 日目夕食の素材特選コース 8085 円（7700 円に配膳料 5%）
 - 2 日目夕食の C コース 3465 円（3300 円に配膳料 5%）
 - 朝食と入湯税 1733 円×2 日分
 - 宿泊料 約 6900 円×2 日分（和室の 1 名利用 9130 円、
2 名利用 8030 円、3 名利用 6930 円、4 名利用 5830 円
の平均値）
 - 夕食時の飲み物 約 1800 円（2 日間 1 人当たり）
- ・ 交通費 約 10000 円 走行距離約 600km のガソリン代と高速道路料金
- ・ その他 約 5000 円 昼食、袋田の滝の駐車場、部屋飲みの酒類など、